



NATIONAL AINU MUSEUM

vol.002
2020 NOVEMBER

アヌコロ アイコマケル ソコ 国立アイヌ民族博物館 ニュースレター アヌアヌ

ANUANU



基本展示の注目ポイント②
「イノミ 私たちの世界」

シアター「世界が注目したアイヌの技」

収蔵資料展 イコロ ～資料にみる素材と技～

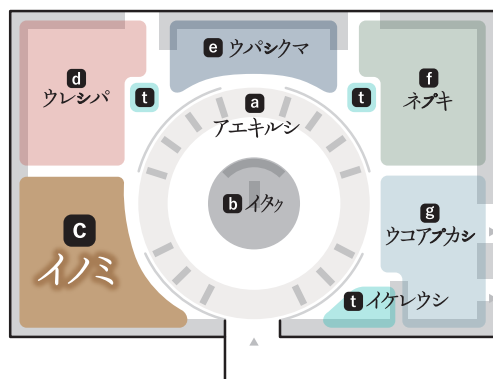
博物館Pickup!

基本展示の注目ポイント②

イノミ 私たちの世界



常設の基本展示室は、私たちアイヌ民族の視点で、ことば、文化、歴史について紹介しています。数回にわたって、それぞれのテーマの見どころをお届けします。



基本展示における「イノミ」の役割

導入展示から左手に進んでいくと、高さ約6mのシンボル展示「クマつなぎ杭」に出合えます。ここからはアイヌの精神世界をテーマにした展示「イノミ」となります。カムイと人間の関係を理解できるアニメーション、儀礼で使う道具、人間の生きている世界と死後の世界についての考え方などを展示しています。また、各地の季節ごとの儀礼やイナウに似た祭具もご覧いただけます。私たちアイヌ民族が自分の周りの世界をどのように考えてきたのかをぜひ感じてください。



イモカシケ(お土産荷)

イモカシケは、イオマンテのときにカムイへ持たせるお土産です。1985年、北海道旭川市にある川村カ子(ね)トアイヌ記念館で行われた事例に基づいて再現しています。当時、実行委員会を組織してイオマンテの中心的役割を担った同記念館館長の川村兼一さんに、イナウや花矢などを製作していただきました。



ヌサ(祭壇)

ヌサはいろいろなカムイに捧げられたイナウが立ち並んでいる祭壇です。設置場所は母屋の入口に對面する奥の窓(神窓)の外にあり、家の東側、あるいは川の上流側など地域による違いがあります。このヌサは帯広百年記念館の資料を参照し北海道帯広市の40代の若手を中心に製作していただきました。

トクシシ(クマつなぎ杭)ができるまで



1 民族学者ピウスツキ収集の背中あて調査 (2018年10月、ロシア)



6 クマ飾りの製作作業 (2020年3-5月、北海道白老)



2 東京国立博物館所蔵の頭飾調査 (2018年11月、東京上野)



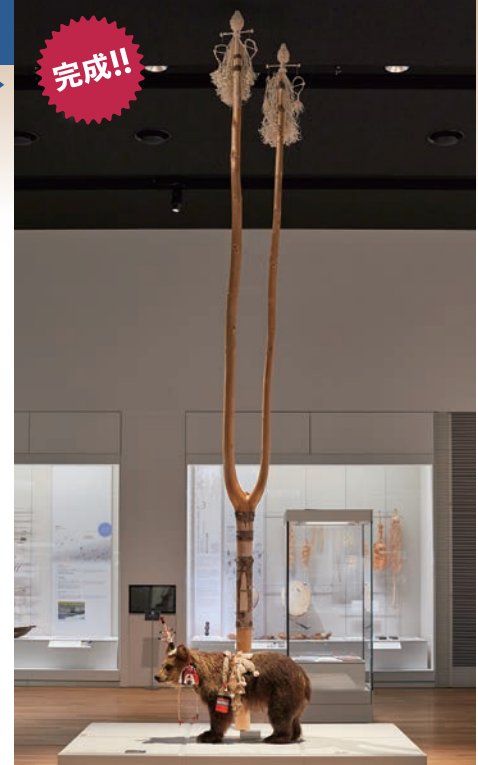
5 展示室内で杭にイナウを付ける作業 (2019年12月、北海道白老)



3 二股のトマツ材の伐採 (2018年12月、北海道白老)



4 樺太の小刀を使ったイナウ削りの試行錯誤 (2019年11月、北海道白老)

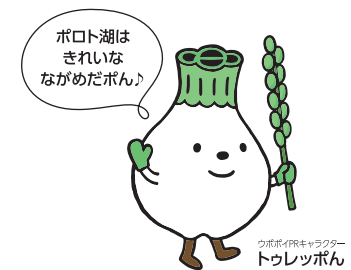


博物館のシンボルである、樺太アイヌが霊送り儀礼でクマをつなぐための杭は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの北原モコツウナシ、ウボボイ職員の山道ムカラ主事と山田チケンキオ主事によって、2019年から2020年にかけて復元されました。杭とクマの飾りが展示されているのは当館だけです。二股に分かれた杭は、約6mもあるトマツで白老町の山林から切ってきました(本来のサイズは約10mです)。杭の先端にくくり付けているイナウは、樺太のイナウを削る小刀を再現し、削り出しました。仔グマに飾り付けた頭飾・耳飾・背中あては、ロシアや東京、大阪、網走の博物館に収蔵されている民具を調査し製作しました。



カムイとくらす世界

ラムツ(靈魂)は動植物や自然現象をはじめ、さまざまなものに宿っています。その中でも、人間にとって重要な働きをするものをカムイと呼んできました。「カムイとくらす世界」では、こうしたイメージしづらい、また直接目に見えないラムツやカムイについてアニメーションで紹介しています。



見て見て! 館内サイン

ウボボイのアイヌ語表示について紹介します。

インカラ ウシ

パノラミックロビー

博物館の2階には、目の前にポロト湖が広がる空間があります。日本語では「パノラミックロビー」ですが、実はそのまま英語にできない和製英語! 英語では Observation deck (展望台) と名付けることにしました。アイヌ語の名称は「インカラ ウシ」。直訳すると「眺める場所」、つまり展望所のことです。北海道の地名にも残るアイヌ語です。例えば、見張りに使われたともいわれる瞰望岩が有名な遠軽(えんがる)という地名も、アイヌ語の「インカラ ウシ」が由来とされています。



シアター 「世界が注目したアイヌの技」

ヨーロッパ各地やアメリカの博物館では、確認されているだけでも14,000点を超えるアイヌ民族資料が収蔵されています。日本では見ることでできない貴重な資料や博物館の展示の様子、そして現代のアイヌ民族と各国の研究者との関わりを紹介しています。



ロシア 17世紀以降、シベリア、アラスカに勢力圏を広げる過程で出会ったさまざまな民族の調査を行う中で収集された多くのアイヌ民族資料が所蔵されています。

ロシア科学アカデミー・ピョートル大帝記念人類学民族学博物館 ロシア/サンクトペテルブルク



通称クンストカメラ。ピョートル大帝が創建したロシア最古の博物館。常設展示室では20世紀初めに収集されたアイヌ民族資料を展示しています。



18世紀中ごろに集められた千島アイヌの衣服。飾りや刺しゅうには、小袖などの絹の布やイラクサの糸が使われ、現存するアイヌ民族の最古の衣服の一つです。

ロシア民族学博物館 ロシア/サンクトペテルブルク



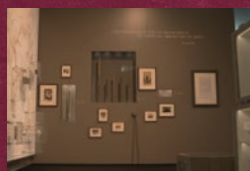
民族学に関するロシア最大の博物館。東ヨーロッパから極東の諸民族のさまざまな文化を紹介しています。アイヌ民族の子どもの衣服やおもちゃなども多く所蔵。



アザラシの毛皮でつくられた樺太アイヌの衣服。毛皮の色の違いで模様がつくれ、キツネやカワウソの毛皮やガラスのビーズで華やかな装飾が施されています。

ドイツ 24の博物館でアイヌ民族資料を所蔵。19世紀にシーボルトがアイヌ文化を紹介して以降、ドイツ帝国を構成していた各国で積極的に資料が収集され、博物館の格付けを左右するともいわれています。

ラウテンシュトラウフ・ヨースト博物館 ドイツ/ケルン



民族学者のヴィルヘルム・ヨーストが収集したコレクションを収蔵、展示。2010年にリニューアルされた展示室の一角ではアイヌ文化を紹介しています。

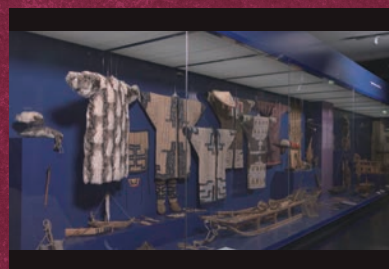


樺太アイヌの男の子が前髪に付けるホッチリ。ガラスのビーズが三角形に並べられ、10歳くらいになり、狩りに初めて成功すると、切り落とされたといわれています。日本国内では1点しか確認されていない、樺太アイヌの文化を知る上で重要な資料です。

ライプツィヒ民族学博物館 ドイツ/ライプツィヒ



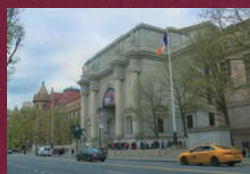
1869年に創立されたドイツで最も古い民族学博物館。世界各地から収集された資料の中に、約9,000点の日本関連資料や700点を超えるアイヌ民族資料があります。



常設展示室のアイヌ文化を紹介するコーナーでは、衣服や生活道具、儀礼に関する資料が展示されています。鳥の羽毛の付いた皮を縫い合わせてつくられた衣服は100年以上前に収集されたものですが、極めて良い保存状態です。

アメリカ 1800年代以降、研究者の調査によって集められた生活道具のほか、写真や映像の記録も多く残されています。アイヌ文化伝承者との交流による展覧会も開催されています。

アメリカ自然史博物館 アメリカ/ニューヨーク



セントラルパークに隣接し、映画『ナイトミュージアム』の舞台としても知られています。世界有数の科学・文化施設で、自然史の展示と並んで、アイヌ民族の常設展示があります。

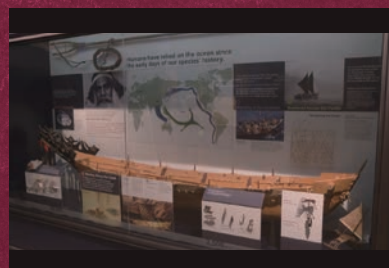


人類学部門に所蔵されているおよそ430点の資料の多くは1900年前後に収集されました。衣服は広げられた状態のまま、温度と湿度の管理された収蔵庫で保管されています。

スミソニアン国立自然史博物館 アメリカ/ワシントンD.C.



収蔵する資料点数は1億4,600万点にもおよび、アメリカでも屈指の規模を誇ります。あらゆる種類の生活道具に加えて、植物などの素材も合わせて収集され、自然史博物館ならではの資料を有します。



海に関する常設展示の入口に展示されている、外洋に漕ぎ出すときに使った板と舟の模型。1999年に開催された特別展「Ainu: Spirit of Northern People」に合わせ、(一財)アイヌ民族博物館の野本正博元館長が製作したものです。

収蔵資料展 イコロ ～資料にみる素材と技～

博物館にとって、収蔵資料とともにアイヌ文化資料に関する研究成果もイコロ(宝物)です。これまで、研究員・学芸員それぞれが取り組んできた研究成果と、当館で導入した科学分析装置を用いたアイヌの生活用具に関する新たな研究の試みを、資料とあわせて紹介します。

センカキ・アットウシ —布(木綿・樹皮)—

衣服の製作技術は、時代により変化するものと、伝承や資料を見て技術を学ぶことにより変わらずに残るものがあります。衣服の製作方法について紹介するとともに、CT画像による模様の製作技術などの展示をします。



衣服(木綿)

ニ —木材—

生活の中で、用途に合った木材を用いて生活に必要な道具をつくってきました。多くの場合、そうした道具には、模様の彫刻や装飾が施されています。最新の分析機器を用いてイタ(盆)やマキリ(小刀)に用いられた技術を分析し、その結果を紹介いたします。



マキリ(小刀)

カニ —金属—

交易によってさまざまな金属製品を入手し、身体や宝壇などを飾る装飾品として利用してきました。使用された金属は銅や銀、真ちゅう、洋銀などが知られています。金属製品には、製作の背景や入手に至る交易の様子を知る手掛かりが含まれていると推測され、素材やつくりなどの科学的な調査の進展が期待されています。



タマサイ(首飾)

シキナ —ガマ—

身近にある植物を材料にして、さまざまな生活用具をつくってきました。アイヌ語でシキナなどと呼ばれるガマなどを材料としたごもその一つです。ここではCT画像による製作技法の分析や、染色を再現する試みとともに紹介します。



花ごぞ(上:部分拡大下:CT画像)

ウッシ —漆—

漆器は儀礼で用いる重要な道具です。日常でも食器として用いられるほか、宝物として屋内の上座に飾られてきました。種類や形状もさまざまな漆器の全体像と、CT画像による構造分析を紹介いたします。



シントコ(行器) (左:全景 右:CT画像)

カンピ° —紙—

文書や絵画の中には、和人などが外側から記録したものと、アイヌ民族が言語や文化を記録し、内側から伝え残そうとしたものがあります。これらは写真や映像、録音機材が手に入らなかった時代の情報も伝えてくれる貴重な資料です。



『アイヌ語入門』(原稿)

アイヌが先祖や家族から伝え聞き、植物の特性を熟知し、用途に合った材料を選定し、道具を製作している様子が資料から伝わることでしょう。素材による製作技法の違いなどに関心を持って、6つのテーマをご覧ください。

会期 2020年12月1日(火)～2021年5月23日(日)

1期 2020年12月1日(火)～2021年1月24日(日)
2期 2021年2月2日(火)～3月21日(日)
3期 2021年3月30日(火)～5月23日(日)

知里真志保 遺稿ノート 1930年代



アイヌ語やアイヌ文化研究の基礎をつかった言語学者で民族学者の知里真志保(1909-1961)は、多くの著作を残しました。一方で、内面に関わることは彼の伝記などで知られているところですが、妻の萩中美枝氏に託した学生時代のノートに自筆で書かれています。これらの資料を展示室で公開し、彼の生涯を通してアイヌ民族の歴史を紹介します。

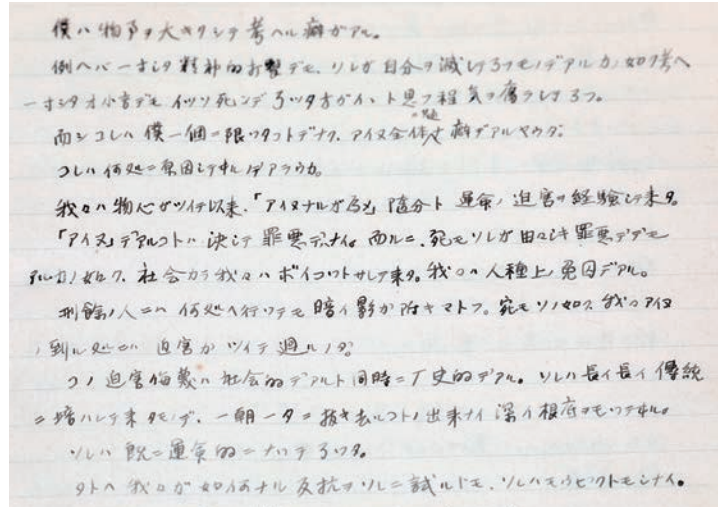
彼は、『アイヌ神謡集』を編集した幸恵の弟として、現在の登別市に生まれ育ちました。優秀な彼は、第一高等学校(旧制)を経て東京帝国大学(現・東京大学)文学部英文学科に進みました。いわばエリートだったわけですが、当時は、上京した数少ないアイヌ民族の若者の一人として、また、今ほど情報が多くない時代に少数者がどれほど周囲から奇異の目で見られたか、現代の我々の想像を超えるものがあったと思います。彼はその感情をノートに綴っています。



「我々は物心がついて以来、「アイヌなるが為め」随分と運命の迫害を経験して来た。「アイヌ」であることは決して罪悪ではない。而るに、宛もそれが由々しき罪悪でもあるかの如く、社会から我々はボイコットされて来た。我々は人種上の免囚である。」

一人の青年にここまで書かせた状況はどのようなものだったのか。少数者として自らの存在を肯定しなければ前に進めなかったのでしょうか。アイヌだということだけで注目され、大学の教官、同級生からからかわれ、疎外されてきた心情を綴っています。別のところでは、こうも書かれています。「アイヌは迫害されるもの」。ここまで言い切った当時の彼の心情に、どこまで想像力を働かせることができるか。アイヌ民族の歴史の一端として、この日記を見る者すべてに問いかけています。

(展示企画室長 田村将人)



基本展示室に新しい資料を展示しました

博物館の基本展示室では、資料の保護や、最新の研究成果、新規の収蔵資料等を紹介するため、定期的に展示替えを行っています。開館から2カ月がたった9月には初めての展示替えを行い、新しい資料を展示しました。今後の展示替えについてはウェブサイトでお知らせします。

ここに注目! 1階展示コーナー 国立アイヌ民族博物館2020

博物館1階の交流室前にある展示ケースでは、「国立アイヌ民族博物館2020」というテーマで展示を行っています。ここでは、当館ができるまでの世界と日本国内の動きと、所在するポロトの歴史を2018年まであった(一財)アイヌ民族博物館(通称ポロトコタン)を中心に、資料と写真、動画などによって紹介しています。歴史的な文脈の中で、当館が2020年にこの地に開館したことを知っていただければと思います。

(学芸主査 立石信一)



「国立アイヌ民族博物館2020」の展示の様子

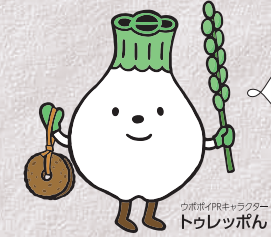
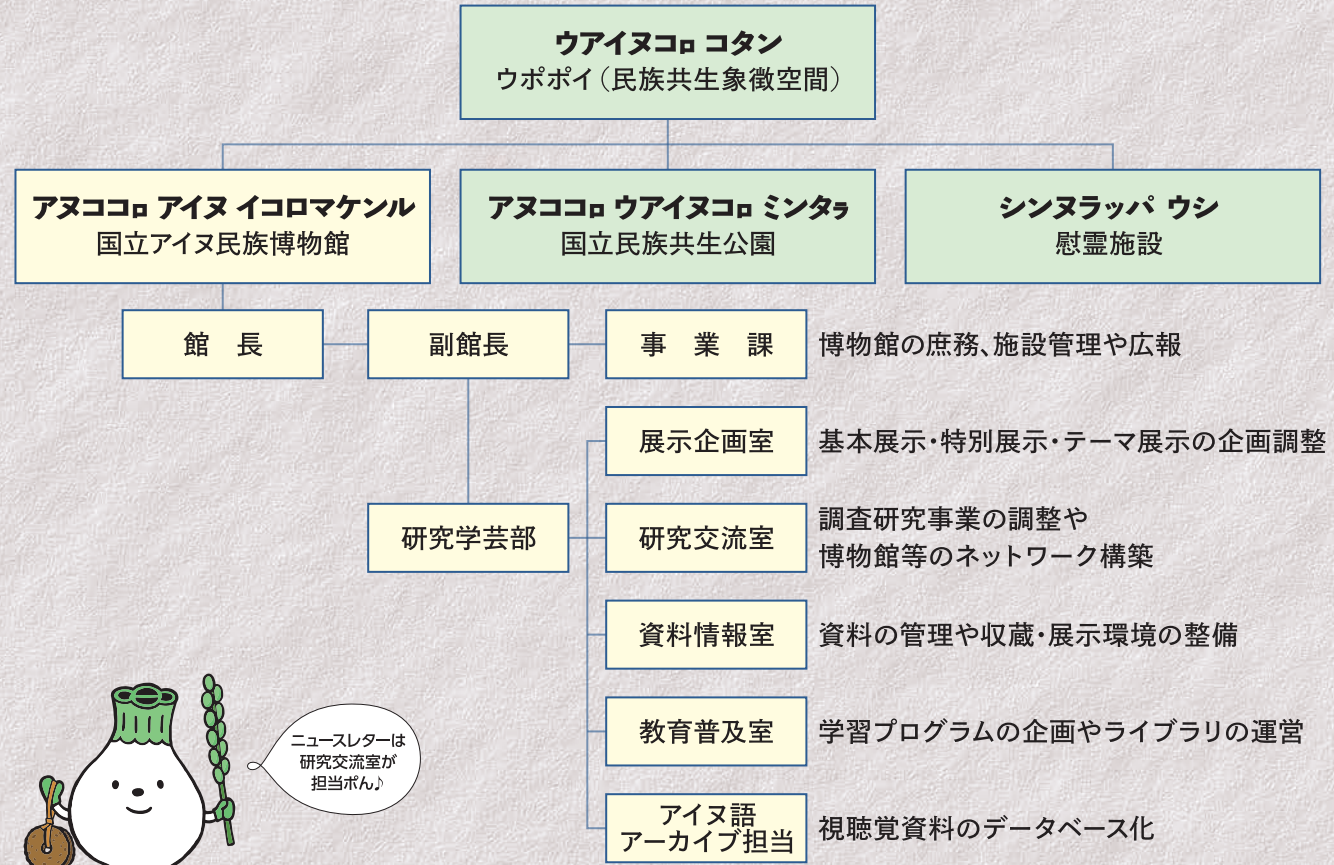


足裏に「1964.3.13」「白老記念」などと彫られた熊の木彫り

ウポポイの主要施設と 国立アイヌ民族博物館の組織

ウポポイ(民族共生象徴空間)は、アイヌ文化の復興の中核となる国立アイヌ民族博物館および国立民族共生公園を設置する区域、遺骨等の慰霊および管理のための施設等で構成されています。

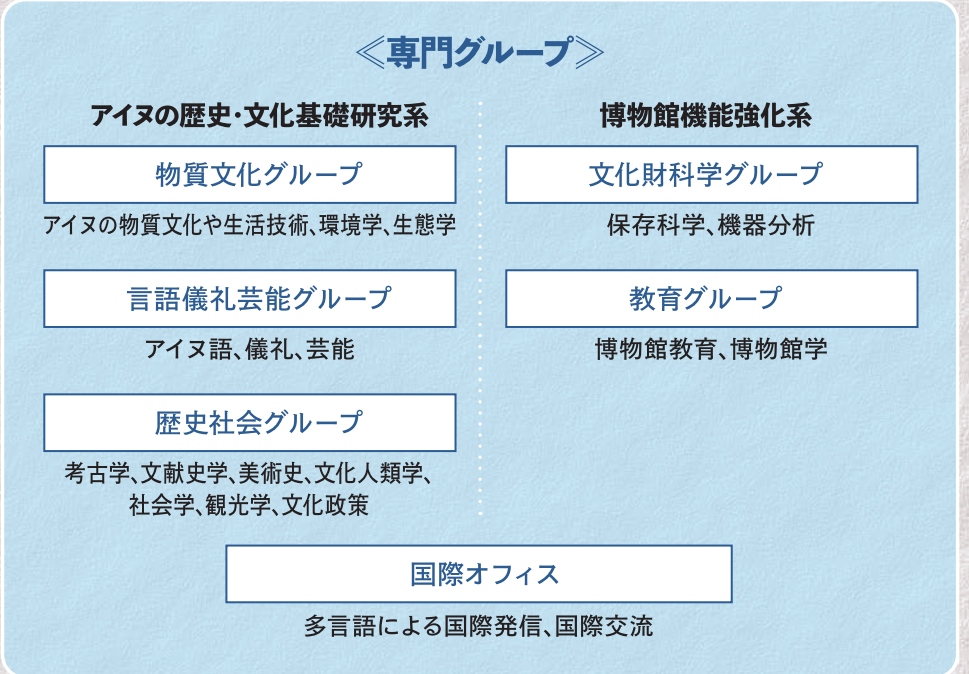
国立アイヌ民族博物館は「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外のアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という理念を掲げ、アイヌ文化の展示、調査研究、教育普及、人材育成、資料整備等に取り組みます。



ニュースレターは研究交流室が担当ボン♪

博物館では、研究学芸部の4つの室が、展示、調査・研究、資料の収集・保存・管理、教育・普及事業などの調整業務を担当します。

アイヌの歴史・文化や博物館機能の調査研究や展示などの学芸業務については、各専門分野に基づくグループで行います。



ウポポイへの入場は 事前予約制です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための
取り組みについて、ご理解とご協力を
よろしくお願いいたします。



STEP 1

博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約
をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はでき
ませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる
人数を常時200人程度に保つため、1時
間刻みの予約制としています。オンライン
予約で「博物館 入館整理券」を発行し
てください。

オンライン予約の状況を
ご確認後に、
ウポポイ入場券の購入を
お勧めしています。

博物館への予約は
こちら



<https://www.e-tix.jp/nam/>



STEP 2

入場券の事前購入

| 入場券 | 料金 (税込) | 入場日 の予約 |
|-------------|------------------------------------|---|
| 1日券 | 大人 1,200円 高校生 600円 | オンライン購入時 に日付を指定 |
| 年間 パスポート | 大人 2,000円 高校生 1,000円 | 入場日予約券 (無料)を発行。 オンライン予約 で日付を指定 |
| 入場無料 | 中学生以下 障がいのある方、 その介助者 (1名) | |

1日券購入は
こちら

年間パスポート
購入はこちら



ウポポイから入場に関するお知らせ

ご来場の際には、新型コロナウイルス感染拡大防止のための以下の取り組みについて、
ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

- ウポポイでは、入場日の予約制(日付指定)を導入しております。ウェブサイトの「入場券等のお求めと来場日の予約について」により、必要な入場券等を入手の上、ご来場ください。
- 国立アイヌ民族博物館の展示室の観覧を希望する方は、別途、オンラインによる入館日時の予約が必要です。
- 博物館以外の施設では、当日、整理券を配布するものがあります。
- ご入場の際には、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保及び連絡先記入票のご提供(博物館入館日時の予約された方を除く)等についてご協力をお願いします。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、プログラム内容等の一部変更、中止している場合があります。ウェブサイト等で事前にご確認ください。

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

11月から開館時間に変更になりました

20時閉館(9・10月の平日は18時閉館)の夏季夜間営業を終了しました。
11月1日からの開館時間は以下の通りとなりますのでご注意ください。

2020年11月1日～2021年3月31日 / 9:00～17:00

※博物館は、ウポポイ(民族共生象徴空間)内にあります。博物館閉館時間とウポポイ開園時間は同一です。

※第1・第2・臨時駐車場へ入場できる時間は8時～閉園時間の1時間前までです。

ウポポイへ入園できる時間は閉園時間の1時間前までです。博物館へ入館できる時間は閉館時間の30分前までです。

収蔵資料データベースと収蔵図書OPACを公開しています

博物館の収蔵資料や図書を検索できる「収蔵資料データベース」と「収蔵図書OPAC」を公開しています。ライブラリは新型コロナウイルス感染防止のため閉室していましたが、9月1日から人数制限等の感染防止対策を実施して開室しています。「収蔵資料データベース」では、収蔵されている資料の情報を探すことができます。どちらも当館ウェブサイトからご覧いただけます。

●国立アイヌ民族博物館ウェブサイト「調査・研究」> https://nam.go.jp/surveys_and_research/



収蔵資料
データベース



収蔵図書
OPAC

北海道大学との学術連携協定を締結しました

国立アイヌ民族博物館は、北海道大学アイヌ・先住民研究センターと共同研究の推進や教育活動において協力することを目的に、学術連携協定を締結しました(2020年11月13日)。

締結式に臨んだ
佐々木史郎館長(左)と
加藤博文センター長(右)



<https://nam.go.jp/>

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
メール:info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



※アヌアは、アイヌ語で「もしもし」の意味です